

【コンセプトたたき台を構成する主な意見】

主に「方針1」から

学校づくりの中心を「子どもたち」に置く表現

主な意見

- 子どもたちが自由に、のびのびと学習や運動をできる環境を整えてほしい
- いじめや不登校がなく、子どもが安心して楽しく通える学校になるとよい
- 発達障害を抱える生徒や支援が必要な生徒、多様なルーツの生徒へのケアに重点を置いてほしい
- 子どもたちの意見も十分に反映してほしい など

子どもたちを第一に考え、 地域とともに 未来へつなぐ 学校づくり

主に「方針2」「方針3」から

地域が子どもを支え、学校と地域が相互に関わる 言葉として、「地域とともに」と表現

主な意見

- 校庭や体育館を地域にも開放してほしい
- 地域との交流がなされることで、子ども達の安全が保たれ、安心安全な街にもなる
- 世代を超えた生涯学習の場、地域活動拠点、賑わい・交流拠点であってほしい

主に「方針4」「方針5」から

将来への対応と地域の歴史や文化、桜など大切な地域資源を 次世代へ継承していくという考え方を「未来へつなぐ」と表現

主な意見

- 将来を見据えた最新技術の導入と学習を提供してほしい
- 少子化を前提に、将来的には学校以外の用途も見据えた改修を考えてほしい
- 持続可能な設備を考え、雨水や太陽光エネルギーの活用、屋上緑化などを進めてほしい
- 緑や桜を守りつつ、街のシンボルとなる校舎デザインにしてほしい

《基本方針案》

方針1 子どもたちの学びと成長を第一に考える学校

小・中学生アンケート、
保護者アンケート、
大学生グループインタビュー、
ワークショップから

「学習環境の充実」「ICTの活用」「図書室・自習スペース」「主体的な学び」「安心して過ごせる居場所」など、子どもたちの学びと成長に関する意見が寄せられた

(1) 学び

多様な学習活動や交流活動に対応できる、質の高い学習環境を整える。

〈主な意見〉

- 学びの場であることが最優先なので、落ち着いて学習に集中できる環境であってほしい。
- IT教育、英語、実習など座学以外の学習も充実させてほしい。
- デジタル設備等を充実させ、自学自習や自立的な学びにつながる空間があるとよい。
- 伝統文化を理解できる学習環境も取り入れてほしい。

(2) 居場所

教室だけでなく、一人でも友だちとでも、安心して過ごせる多様な居場所を確保する。

〈主な意見〉

- 一人でも落ち着いて過ごせる場所がほしい。
- 図書室や自習スペース、談話・交流スペースを充実してほしい。
- 安心して過ごせる居場所がほしい。

《基本方針案》

方針1 子どもたちの学びと成長を第一に考える学校

(3)多様性

一人ひとりの個性や特性、多様な背景を尊重し、誰もが安心して学べる学校を目指す。

〈主な意見〉

- ・ 発達障害を抱える生徒や支援が必要な生徒、多様なルーツの生徒への配慮を充実してほしい。
- ・ 誰もが利用しやすい学校にしてほしい。

(4)自主性

子どもたちが主体的に学び、考え、行動できる環境を整える。

〈主な意見〉

- ・ 子どもたちの意見も十分に反映してほしい。主体的に学び、自ら考え行動できる環境がほしい。
- ・ 自学自習につながる環境を整えてほしい。



これらの意見を踏まえ、子どもたち一人ひとりの学びや成長を支え、安心して学び、多様な人との関わりの中で主体的に学ぶことができる学校を目指す考え方として整理した。

《基本方針案》

方針2 安全・安心で誰もが過ごしやすい学校

小・中学生アンケート、
保護者アンケート、
地域住民アンケート、
大学生グループインタビュー、
ワークショップから

「防災」「防犯」「ユニバーサルデザイン」「健康・快適性」に関する意見が寄せられた。

(1)防災

災害時にも子どもたちの安全を確保するとともに、地域の避難所としての機能を備えた学校を目指す。

〈主な意見〉

- ・ 奥まった場所に学校があるため、火災時の避難経路として校門以外の経路も確保してほしい。
- ・ 校内にいる生徒にとっても、近隣住民の避難場所としても安心安全な場所であってほしい。
- ・ 防災設備や備蓄を充実させ、発電機、ソーラーパネル、防災倉庫の設置と管理体制を強化してほしい。
- ・ 災害発生時でも、生徒の学習が継続できるような計画してほしい。

(2)防犯

子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、防犯性と見守りに配慮した学校環境を整備する。

〈主な意見〉

- ・ 防犯カメラや入校管理など、セキュリティを強化してほしい。
- ・ 事件・事故だけでなく、いじめにも配慮してほしい。
- ・ 地域に開かれた学校と、防犯面で安心できる学校を両立してほしい。

《基本方針案》

方針2 安全・安心で誰もが過ごしやすい学校

(3)ユニバーサルデザイン

子どもたちをはじめ、学校を利用する誰もが安心して利用でき、分かりやすい学校施設を目指す。

〈主な意見〉

- 多様性に対応し、誰にでも使いやすく、分かりやすい学校にしてほしい。
- エレベーターを設置してほしい。
- ユニバーサルデザインとエアコンの完備が必要だ。

(4)健康・快適性

明るさや通風、温熱環境、衛生環境などに配慮し、子どもたちが心身ともに健康で快適に過ごせる学校環境を整える。

〈主な意見〉

- 明るく、ゆったりと過ごせる場所がよい。天窓等からの採光も考えてほしい。
- 明るく広い教室や設備の充実など、学校生活の快適性を高めてほしい。
- 落ち着いて学習に取り組める環境にしてほしい。



これらの意見を踏まえ、安全・安心な教育環境を確保するとともに、誰もが安心して快適に過ごせる学校を目指す考え方として整理した。

《基本方針案》

方針3 地域と共存し、地域とともに歩む学校

保護者アンケート、
地域住民アンケート、
大学生グループインタビュー、
ワークショップから

「地域利用」「地域交流」「近隣への配慮」「学校への愛着と誇り」に関する意見が寄せられた。

(1) 地域利用

学校施設を地域に開かれた空間として活用し、多世代が利用しやすい環境を整える。

〈主な意見〉

- ・ 校庭や体育館を地域にも開放してほしい。
- ・ 世代を超えた生涯学習の場、地域活動拠点、賑わい・交流拠点であってほしい。
- ・ 学校施設を多目的に利用できるようにしてほしい。

(2) 地域交流

学校と地域との交流を深め、地域の人々との関わりを通して子どもたちの学びや成長につなげる。

〈主な意見〉

- ・ 地域との交流がなされることで、子どもたちの安全が保たれ、安心安全なまちにもなる。
- ・ 地域の人材や活動を学校教育に活かしてほしい。
- ・ 地域と学校が日常的に交流できる学校にしてほしい。

《基本方針案》

方針3 地域と共存し、地域とともに歩む学校

(3)近隣への配慮

学校運営や施設整備にあたっては、周辺住民の生活環境との調和に配慮し、住宅地に立地する学校として共存できる環境づくりを進める。

〈主な意見〉

- ・ 周辺住宅への騒音や日影などに配慮してほしい。
- ・ 周辺道路の安全や交通に配慮してほしい。
- ・ 地域と良好な関係を築ける学校であってほしい。

(4)学校への愛着と誇り

地域に親しまれ、子どもたちや卒業生、地域住民が愛着と誇り

〈主な意見〉

- ・ 地域のシンボルとなる学校であってほしい。
- ・ 地域に親しまれる学校であってほしい。
- ・ 桜など、駒込らしさを大切にしてほしい。歴史や伝統を受け継いでほしい。



これらの意見を踏まえ、子どもたちや地域住民が愛着と誇りを持てる学校を目指す考え方として整理した。

《基本方針案》

方針4 駒込らしさを未来へ受け継ぐ学校

小・中学生アンケート、
保護者アンケート、
地域住民アンケート、
大学生グループインタビュー、
ワークショップから

「桜」「歴史」「緑」「思い出」「地域資源」に関する意見が寄せられた。

(1)桜

地域や学校のシンボルである桜を大切にし、学校の歴史や思い出を未来へつなぐ。

〈主な意見〉

- ・春の入学式や卒業式の時に眺めることができる桜を残してほしい。
- ・桜は駒込中学校のシンボルなので残してほしい。
- ・卒業生として、入学式や卒業式の桜の思い出がある。
- ・染井の桜の里など、街のシンボルとなる校舎デザインにしてほしい。

(2)歴史

駒込中学校の歴史や伝統を継承し、地域とともに歩んできた学校の歩みを未来へ受け継ぐ。

〈主な意見〉

- ・学校と地域の歴史や伝統、文化を大切にしてほしい。
- ・駒込らしさを感じられる学校としてほしい。

(3)緑

緑豊かな環境を保全・創出し、自然に親しみながら学べる学校づくりを進める。

〈主な意見〉

- ・緑をできるだけ残してほしい。 ・樹木を大切にしてほしい。 ・自然を感じられる学校にしてほしい。

《基本方針案》

方針4 駒込らしさを未来へ受け継ぐ学校

(4)思い出

子どもたちや卒業生、地域の人々が愛着を持ち、思い出を積み重ねられる学校づくりを進める。

〈主な意見〉

- 入学式や卒業式の桜の思い出を残してほしい。
- 今ある学校のよい雰囲気を大切にしてほしい。

(5)地域資源

学校だけで完結するのではなく、地域の文化や自然、人材などの資源を教育活動に活かし、地域とともに学ぶ学校を目指す。

〈主な意見〉

- 染井の桜の里など、地域の特色を活かした学校にほしい。
- 地域の人材を活用した学習を進めてほしい。
- 地域とのつながりを大切にほしい。



これらの意見を踏まえ、駒込中学校の桜や歴史、緑などの地域資源を大切にし、駒込らしさを未来へ受け継ぐ学校を目指す考え方として整理した。

《基本方針案》

方針5 将来の変化に対応できる持続可能な学校

保護者アンケート、
地域住民アンケート、
大学生グループインタビュー、
ワークショップから

「ICT」「多目的利用」「教育の変化への対応」「環境」に関する意見が寄せられた。

(1)ICT

ICTを効果的に活用し、多様な学び方や新しい教育に対応できる学習環境を整備する。

〈主な意見〉

- DX化に対応できる通信環境、電源設備など、将来を見据えた最新技術の導入と学習
- デジタル設備等を充実させ、自学自習や自立的な学びにつながる空間があるとよい。
- ICTを活用した学習環境を充実してほしい。

(2)多目的利用

教育活動だけでなく、地域利用や災害時など、多様な用途に柔軟に対応できる施設・空間づくりを進める。

〈主な意見〉

- 学校施設を多目的に利用できるようにしてほしい。
- テニスコートなどは多目的に利用できる空間としてほしい。
- 災害時にも活用できる施設としてほしい。

《基本方針案》

方針5 将来の変化に対応できる持続可能な学校

(3)教育の変化への対応

教育内容や学び方の変化に対応し、子どもたちの主体的な学びを支える学校づくりを進める。

〈主な意見〉

- IT教育、英語、実習など座学以外の学習も充実してほしい。
- 多様な学び方に対応できる学校としてほしい。
- 将来の教育に対応できる学校としてほしい。

(4)環境

省エネルギーや環境負荷の低減に配慮し、自然と共生する持続可能な学校づくりを進める。

〈主な意見〉

- 持続可能な設備を考えることは必須。雨水や太陽光エネルギーの活用、屋上緑化などを進めてほしい。
- 環境に配慮した学校としてほしい。
- 自然エネルギーを活用してほしい。



これらの意見を踏まえ、ICTの活用や教育内容・学び方の変化への対応、多目的利用、環境への配慮を通じて、将来の変化に対応できる持続可能な学校を目指す考え方として整理した。